

第65回全国博物館大会決議

私たちは、公益財団法人日本博物館協会主催のもと、大分県、大分県教育委員会、大分県博物館協議会、大分市、大分市教育委員会及び公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団の共催、並びに文部科学省の後援を得て、第65回全国博物館大会を、平成29年11月29日・30日・12月1日の3日間にわたり開催し、全国各地から約400名が参加して熱心な討議を行った。

今日、博物館は、館種・設置者の如何を問わず、文化財・博物館資料の保存と活用から地域振興への貢献等、生涯学習の中核施設として多様な役割が期待されている。

本大会では、学校教育との連携をはじめ、地域振興への貢献、学芸員の在り方、文化財防災等、多岐にわたる議論が展開され、多様な社会の期待に応えるために、博物館は基本的機能の充実を図りつつ、地域社会との連携、大規模災害への対応、国際化等を推進する必要がある、そのためには、それぞれの博物館の努力はもとより、厳しい運営環境や博物館制度の改善が必要であることを確認した。

ここに、「今、博物館に求められていること -持続可能な社会における役割-」という本大会のテーマを実効あるものとするため、第65回全国博物館大会の名において次のように決議する。

記

- 1 各博物館は、日本博物館協会の『対話と連携の博物館』（平成13年）及び『博物館の望ましい姿』（平成15年）の両調査報告書を行動指針とし、平成24（2012）年に同協会が制定した「博物館の原則」と「博物館関係者の行動規範」、及び平成27（2015）年にユネスコが採択した「ミュージアムと収蔵品の保存活用、その多様性と社会における役割に関する勧告」の趣旨を十分に理解し、その社会的役割を果たすために、博物館の公益性及び信頼性の確保に努め、お互いの連携強化を図り、総力を挙げて行動する。
- 2 平成31（2019）年9月に開催される第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会を、日本文化の国際発信とともに、博物館の社会的役割を示し、その持続的発展を図る契機と捉え、博物館界を挙げて連携し、京都大会の成功に向け努力する。また、各博物館は、国際会議や研修等へ積極的に参加し人材育成を図るとともに、資料情報等の多言語化の推進やデータベース化等による国の内外への情報発信力強化に取り組む。これらの取組の着実な進展に向け、国を始めとする関係機関・団体等に対し支援・協力を強く要請する。
- 3 各博物館は、大規模災害で被災した博物館及び被災文化財・博物館資料の復興を支援する。また、日本博物館協会は、地域及び全国的な文化財防災ネットワークと連携して博物館全体の防災体制の強化に努めるとともに、各博物館との連携の下に、東日本大震災等で被災した施設等の復興支援を継続的に実施する。
- 4 日本博物館協会は、前回（平成20年）の博物館法改正で検討事項とされた『博物館登録制度』等について、「博物館登録制度の在り方に関する調査研究委員会」の審議結果を踏まえ、今後の博物館法の在り方について速やかに検討し、その結果をまとめ、国を始めとする関係機関・団体等との連携の下に、博物館の充実・振興に資する新たな法制度の構築を目指して行動する。
- 5 各博物館は、社会からの期待に応えるために不可欠な、文化財・博物館資料等の保存環境の整備、学芸員等の必要な人材確保や育成等、その基本的機能の確保・充実に向けて努力する。また、日本博物館協会は、公私立博物館に対する支援の充実を国を始めとする関係機関・団体等に強く働きかけるとともに、博物館の運営形態が多様化するなかで、博物館制度の検討に際しては、経費・人員の削減や合理化・効率化のみが優先されることなく、その目的・役割が確実に達成できる制度設計となるよう国を始めとする関係機関・団体等に求めていく。

以上

平成29年12月1日

第65回全国博物館大会